



菅波 茂

1月22日午後4時半。議長が宣言した。「異議が無いようなので、AMDAの国連経済社会理事会(ECOSOC)総合協議資格を認める」と。重圧でできりきりしていた胃が和らいだ一瞬だった。

審議内容は二つあった。一つは資格にふさわしい活動内容と実績の有無である。もう一つは各国の代表部にとって自国の利益に反しているかどうかの判断である。

場所はニューヨークにある国連ビルの大会議室。米国、ロシア、中国、フランス、ドイツ、トルコ、イラン、インド、パキスタン、ペルー、チリ、コロンビア、キューバ、スーダン、コートジボワール、ジンバブエ、カメルーン、セネガル、ルーマニアの19カ国の国連代表部による満場一致だった。1カ国でも異議があれば認められなかった。

アルメニアのNGOの申請に対してトルコの代表部が猛然と反対の異議を申し立てた。2年続けての見送りになった。A国の人權NGOの申請に対してキューバがその内容を質問した。代表が壇上に招かれて回答した。幸いにもキューバが納得したので申請が認められた。

日本政府国連代表部がオプザバー参加して異例の支援表明をしてくれた。「日本政府は国際社会における非政府機関(NGO)の活動の推進を望んでいる。日本政府はAMDAの活動に資金援助して

B国の人權NGOの申請に対してB国の代表部がわざわざオプザバーとして参加して、「組織に問題あり」と異議を申し出た。その人權NGOの代表が19カ国の主なメン

資格総合協議理事会社会経済連国

バーに問題が無いことを必死に休憩時間に説明して回った。午後の審議では全員が異議なしで申請が認められた。彼は隣の席にいた私に抱きついてほおにキスをしてくれただ。よほどうれしかったの

国際社会は厳然たる階級社会である。メンバシップの有無に絶対的な意味がある。そして沈黙は黙認か黙殺かである。AMDAの源流である「第一次岡山大学医学部クワイ河医学踏査隊」をタイ・ミャンマー国境地帯のモン族開拓農場に派遣してから35年、AMDAを設立してから22年になる。国際社会における不条理を嫌というほど経験してきた。

不条理に対する問題解決能力はどうあるべきか。答えの一つがローカルイニシアチブである。一現場の問題を一番良く知っている人が一番良い答えを持っている」が定義である。発展途上国によるローカルイニシアチブからの

発言は沈黙の世界に封印されている。ECOSOC総合協議資格でもって、ローカルイニシアチブを国連の場での政策提言に活用する。ジュネーブとニューヨークが活動の場となる。岡山に本部を置く多国籍NGOとして、「西のジュネーブ、東の岡山」の趣旨を更に推進するためにも、多種多様なローカルイニシアチブを展開できる海外支部の数は重要である。現在の29から50に増やしたい。ローカルイニシアチブのネットワーク強化である。

AMDAの支部長たちが国連教育科学文化機関(ユネスコ)、国連児童基金(ユニセフ)、そして国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)など、ECOSOC関連の会議で積極的に発言する光景が見られるのが楽しみである。その時に「世界が必要とする岡山」に一步近づいたことになる。(AMDA代表)

題字は筆者